

1月16日  
防衛講要  
概要

## 「海上自衛隊について」

海上自衛隊第2護衛隊群司令

海将補 清水 徹



を深めていきたいなと思っています。経歴ですけれども、20年ぶりに佐世保に戻ってきたところです。特殊な配置としては今話題といえますが、国家防衛戦略を策定した国家安全保障局、この立ち上げの初期のメンバーとして自衛官として初めて配置されました。

ろです。これら二つが従来から海自が変わらず保持してきた目標です。最も重要なことはわが国の防衛であり、海上防衛力の本質的な意義は、万が一有事になった場合についてもわが国を守り抜くことであります。

## ■環境の形成

次に、海上自衛隊の目標を達成するための活動について、まずは環境の形成というところです。各国と協力して脅威の発生を事前に予防するということで、各国海軍との親善訓練あるいは国際緊急援助活動などによつて関係を構築しています。また、昨年6月から10月にかけて、護衛艦「いずも」「たかなみ」「さりさめ」がインド太平洋方面派遣に従事しました。各国への寄港は11カ国12寄港地、親善共同訓練の回数は27回を数えました。国際緊急援助活動も環境形成の活動の環

とあります。資料についてはトンガ王国国際緊急援助活動の様子で、輸送艦「おおすみ」がこの活動に従事しました。トンガ王国で発生した自然災害を受け、昨年1月24日、呉を出港し、2月17日までの国際緊急援助活動に従事、3月5日呉に戻つて参りました。

向上、あるいは共同対処能力を維持向上することに大きく寄与します。米海軍とは事前の調整がなくとも、洋上で本当にすぐに調整して高度な訓練をもう淡々とできるようなつています。そして、米海軍との相互理解や運用性についてはますます向上していると言ふ事がいえると思います。昨年12月の時点で、米海軍や各国海軍等との訓練、共同訓練等については、すでに113回を実施しています。

## ■国際観艦式を主催

次に令和4年のトビックスというところで、活動の部を紹介します。海上自衛隊70周年となる令和4年2022年については、11月上旬から中旬にかけて、国際観艦式と観閲式参加艦艇との多国間共同訓練、日米印豪共同訓練のマフパールを実施するとともに、日本としては20年ぶりに西太平洋海軍シンポジウムというものを主催しました。国際観艦式当日は、岸田総理が護衛艦「いずも」に乗艦、観閲指揮官として観閲して頂きました。私は国際観艦式に祝賀後方部隊指揮官として参加するとともに多国間共同訓練の現場指揮官、部隊指揮官として参加しました。各国海軍はぼつづけ本番と言ふ状況ではありましたが、非常にフットに対応してくれたと思っています。これも普段から親善訓練あるいは共同訓練等を通じて、相互理解というものを深めているからだだと本当に痛切

■24時間360日、今の瞬間も次に平素からの対応の活動について説明します。真に我が国の安全を確保している活動といえるものは、周辺海域空域における警戒監視等の平素からの対応というふうに考えています。海上自衛隊は24時間365日、正月も返上し、護衛艦、哨戒機、潜水艦等によつて常時継続的な警戒監視を実施しており、今この瞬間も日本周辺海域で黙々と任務を遂行してくれている状況です。また、北朝鮮の弾道ミサイル対応や東シナ海で中国海軍艦艇等とのわが国領域への近接に備え、海上保安庁とも協力して警戒監視に従事しています。

中東地域における活動も平素からの対応の活動であり、海上交通の安全の確保にかかる活動と言えます。海賊対処行動についてはソマリア沖アソバ湾で多発する海賊事案を受けて、2009年以降、10年以上我が国は海賊対処のための活動を継続しています。また、情報収集活動については中東情勢を踏まえて海賊対処航空隊が令和2年1月20日以降、第6護衛隊の護衛艦「たかなみ」が同年2月26日以降それぞれの活動を開始し、現在も継続して実施しております。今は佐世保母港とする第8護衛隊の護衛艦「すずき」が本活動に従事しています。

平素から米海軍と共同訓練を行うことは、戦術面などの相互理解や意思疎通と言つた相互運用性をの活用を促進するということで、佐世保の崎辺地区における岸壁等の整備ということも含まれております。

## ■防衛整備計画の方向性

海上自衛隊だけでなく陸海空も含めた防衛力整備計画の方向性ですけれども、まさに民間の企業の方々も痛感されていると思いますが、若者が減ってきていて人材を確保するのが非常に難しいということです。今の自衛隊の定員というものを増やさずに組織として部隊の効率化を目指していくということになります。それと陳腐化しているものは廃止していくということと、海上自衛隊で言う「てんりゅう」などの訓練支援艦は、令和9年までに用途廃止するということ、あるいは「はやぶさ型」のミサイル艇についても、令和14年までに用途廃止見込みです。それと「すがしま型」の掃海艇については、FFM等で部任務が代替できる見込みですので、廃止して行くということも計画されています。

## ■組織の改編

次に組織の改編です。統合運用体制というものが、非常にこれから重要になってきます。シームレスな領域で作戦を実施するために常設の統合司令部と言ふものが創設される方向です。また、自衛隊サイバー防護隊を拡充することで現行体制を大幅に増やすことが進められる予



■自己紹介／梨木陸将補と同期／私の名前は、今日初めて間違わずに読んで頂いて非常に感動しているのですが、清水とおるというような字を書いて実は「ひとし」と読みます。出身は大阪の豊中です。防大には平成4年、1992年に入学し、水陸機動団長の梨木陸将補と同期になります。防大時代の学科、国際関係論学科も同じ、寮も同じで過ごしていました。前職の配置も私は海幕の防衛課長、梨木将補は統幕の計画課長ということで、ほぼ同じような仕事をカウンターパートで勤務させて頂きました。防大時代から非常に仲が良く、また陸上自衛官で本当に尊敬している梨木将補とこの佐世保の地で一緒に勤務できるというのは非常に縁深いものがあるなと思っています次第です。陸上自衛隊のなかでも梨木将補は海上自衛隊に対して積極的に理解しようとしてくれている人物ですので、この機会に陸海統合運用というもの

に感じたところです。他には、護衛艦「まや」と「はぐろ」が弾道ミサイル防衛にかかる機能確認のためのSM-3の発射試験をハワイで実施しました。日米が共同開発した防衛用能力向上型迎撃ミサイルを海上自衛隊の艦艇が発射したのは初めてのことで、今回の成功にあつて、我が国の弾道ミサイル迎撃能力は層向上したと言えると思います。なお「はぐろ」は佐世保に所属している船です。

## ■安保関連3文書と海上自衛隊の方向性

最後に、新たに改訂作成された安保関連3文書と海上自衛隊の防衛力整備の方向性について少しお話をさせて頂きます。いわゆる安保関連3文書、「国家安全保障戦略」と「防衛力整備計画」、「国家防衛戦略」になります。

「国家安全保障戦略」は2012年に作成されて以来、10年ぶりの改訂で、国家安全保障に関する国家としての最上位の文書というふうな位置づけられています。「防衛力整備計画」も新たに策定されたという位置づけで、我が国として保有すべき防衛力の水準と概ね5年後、10年後の自衛隊の体制と5か年の経費の総額、主要装備品の整備数量が示されたところです。「国家防衛戦略」では戦略環境の変化、わが国の防衛の基本的な考え方、防衛目標の実現するためのアプローチが示されています。特に我が国自

身の防衛体制の強化、防衛力の本質的な強化というところが、国家防衛力、防衛戦略の中に示されたということについては、わが国防衛にとつてきわめて意義深いことではないかなと思っています。さらに我が国自身の防衛体制の強化に示された新しい戦い方に対応するために必要な機能能力として、防衛力を10年以内に抜本的に強化するための必要な取組みと、7つの項目が示されています。海上自衛隊としては防衛力整備上の要点を5つの分野に整理したところです。

## ■防衛力整備の要点

最初に現有防衛力の最大活用についてです。既防衛力整備の方向性としては、現有装備品の機能能力、実効性の向上というものを図ろうとしています。また、現有装備品の活動を支える作戦広報基盤の充実と、備蓄燃料弾薬の確保、燃料タンク及び火薬庫の整備を実施していく方向です。この結果、艦艇航空機等の稼働率を向上させることによつて平素からの活動の量というものを確保して行きます。また、平素から有事にあらゆる事態にシームレスに対応可能な体制を確立すると言ふことを目指していく方針です。

2つ目に情報戦能力というものです。海上自衛隊は、陸海空の従来領域や宇宙、サイバー、電磁波認知領域といった新領域といわれるすべてを横断する情報戦をより効果

定です。

海上自衛隊については情報戦の部隊をこれから進展して行くところと、掃海艇と護衛艦の部隊が絡になって、水上艦艇の部隊というものが出来ていくことになります。つまり、私は護衛艦しか乗っていませんが、掃海艇しか乗っていませんというような時代ではなくなと思っています。あと、一人ひとりの隊員がいかなことを二人でこなさないとけない。それができるシステムを今後追求していかないとけないというのが、海上自衛隊の課題かなとも思っています。あとは航空自衛隊ですね。報道でも話題になっていましたが、航空宇宙自衛隊ということで、名前までも変えてしまうという大胆な政策を進めるようです。それだけ宇宙への期待と言いますか、遅れている部分ではあると思うんですが、これから本腰を入れてやって行くということの現れかなと思っています。それだけ非常に重要な分野であるということとは間違いのないかなと思っています。